

・セッション 1 “Introduction”

司会 Peter J. MATTHEWS : 民博助教授

報告 “Wild Food Plants and Vegeticulture” 吉田集而・地域研教授、“The Origin and Spread of Tuber Crops (*Imo*): Vegetable Organs Edible Plants and Vegetative Reproductive Crops” 堀田満・鹿児島大学教授

・セッション 2

“Vegeculture and Seed Culture”

司会 Matthew SPRIGGS : オーストラリア国立大学教授

報告 “Crop-Raising Techniques in Asian Rice Culture: Its Resemblance to Root and Tuber Crop Cultivation” 田中耕司・京都大学教授、“Domestication and Cultivation of Edible Job’s Tears (*Coix lacrya-jobi* var. *ma-yuen*) under the Influence of Vegeticulture” 落合雪野・地域研特別研究員

・セッション 3

“Taro in Eastern Asia and Oceania”

司会 Michael BOURKE : オーストラリア国立大学教授

報告 “Taro Storage Systems” Peter J. MATTHEWS、“Geographical Distribution of Taro in Japan and its Dispersal into Japan” 松田正彦・京都大学院生、“Taro Cropping Systems in the Southeast Asian-Pacific Region: An Archaeological Update” Matthew SPRIGGS、“Morphological and Genetic Variation of Cultivated and Wild Taro” 吉野照道・岡山大学助教授

・セッション 4

“Vegeculture in the Pacific Islands”

司会 印東道子・民博教授

報告 “Local Pacific Foods in Today’s Biodiversity” Nancy J. POLLOCK : ヴィクトリア大学(ニュージーランド)助教授、“Breadfruit Storage and Preparation in the Pacific Islands” Diane RAGONE : 国立熱帯植物園(アメリカ)教授

・セッション 5

“Vegeculture in Papua New Guinea”

司会 豊田由貴夫・立教大学教授

報告 “Tropical Agroforestry, Coastal Lagoons, and Holocene Prehistory in Greater Near Oceania” John E. TERRELL : 自然史博物館(アメリカ)教授、“Intensification of Food Production and

Land Use in Papua New Guinea” R. Michael BOURKE、“Two Anga Vegeticulture Systems in New Guinea: Technical and Cultural Specificities in the Utilization of Some Seasonal Trees” Pierre LEMONIER : オセアニア資料研究センター(フランス)センター長 / Pascale BONNEMÈRE : 同センター研究員

・セッション 6

“Assimilation of New Root Crops”

司会 田中耕司

報告 “Sweetpotato in Japan: Its Origin and Use” 井上浩・サツマイモ資料館館長、“Ngā Riwai Māori: The Perpetuation of Relict Potato Cultivars within Māori Communities in New Zealand” Graham HARRIS : ニュージーランド・ポリテクニク大学教授

・総括討論

司会 吉田集而

出版 物 の お 知 ら せ

『地域研究論集 JCAS Review』

(第3巻第2号)

タイ女性、インド女性、あるいはエジプト女性と聞いたとき何をイメージするだろうか。おそらく、それぞれの地域イメージがそれぞれの女性のイメージを決めているのではなかろうか。本号の特集、押川文子編集「揺らぐジェンダー——地域社会から考える」では、地域研究からジェンダーを捉え直すという地域研究の本質を問う、ある意味では「危険」な試みを行なっている。地域研究は、人びとがそれぞれの状況のもとで紡ぎ出すジェンダーの生成と変遷の過程を書き留めることができるのか。地域研究者が自らに問わなければならない課題である。特集論文4本のほか、一般論文3本を掲載。平凡社より2000年12月発行(2,900円+税)

収録論文	
特集 揺らぐジェンダー——地域社会から考える	川橋範子
ポストコロニアル状況における宗教とジェンダーの語り	速水洋子
差異の交差するところ——北タイ山地における民族間結婚	長沢栄治
アタバの娘事件を読む——現代エジプト社会における性の象徴性	押川文子
インド英字女性雑誌を読む——90年代都市ミドル・クラスの女性言説	
坂井弘紀	テュルク英雄叙事詩の地域的特徴——「チョラ＝バトゥル」の分類をもとに
尹 慧瑛	緊張する「周縁」——「北アイルランド問題」におけるナショナル・アイデンティティ
小倉英敬	ペルーにおける「国民」理念の形成——1920年代のボセ・カルロス・マリATEGIの場合

『アメリカが語る民主主義——

その普遍性、特異性、相互浸透性』

大津留(北川)智恵子 / 大芝亮編・著

1996～1998年度に一橋大学法学部で行なった連携研究会、「アメリカの対外関係における民主主義の意味」の成果をまとめて刊行したものである。20世紀末の国際社会で普遍的価値のように語られた民主主義が、民主国家アメリカの自己像にいかんにかに依拠し、その対外関係においていかに現地社会に影響をおよぼしたかを事例を通して検討し、そこからアメリカの語る民主主義の本質を探ろうと試みた。「アメリカの民主主義の実践」「アメリカの外交政策にみる民主主義」「民主主義観の対立と相互浸透性」「民主主義の普遍性の模索」の4部、全12章からなっている。ミネルヴァ書房より2000年12月発行(4,200円+税)

『中東における国家形成と民族関係』

白杵陽編(JCAS Symposium Series第5号)

特別研究「国家と民族集団」の一環として1997年に行なわれたシンポジウム「中東における国家形成と民族関係」の報告である。シンポジウムのキーワードはエスニシティ、イスラーム、国民国家、国民経済で、中東の国家形成とエスニシティの相互に密接した関係を解明す

活動の記録

Activities

2000年(平成12年)8月1日～
2001年(平成13年)3月31日

連携研究・共同研究活動

連携研究「グローバル化の中の
アメリカのナショナリズム」

11. 18 研究報告「フィリピン第二次世界大戦ベテランにおけるネーション、ナショナリズムと市民権」中野聡(一橋大学大学院社会学研究科助教授)「アメリカにおける移民のデュアル・ナショナリズム」前田眞理子(一橋大学大学院法学研究科講師) 於・一橋大学
12. 9 研究報告「アメリカ市民権法の展開」宮川成雄(早稲田大学法学部教授)「ポイスカウト活動にみる米国日系二世のナショナリズムの形成過程」東自由里(立命館大学産業社会学部助教授) 於・地域研
2. 3 研究報告 Porous Boundaries and Flexible Identity: American Nationalism in an Age of Globalization Jeffrey SPINNER-HALEY(ネブラスカ大学(アメリカ)リンカーン校政治学部準教授) 於・一橋大学

2. 24 研究報告「アメリカのナショナリズムと対外意識——冷戦後の対外軍事行動に対する世論の動向」武田康裕(防衛大学校助教授)「アメリカの戦争とプロパガンダ——第一次、第二次大戦を中心として」寺地功次(共立女子大学国際文化学部助教授) 於・一橋大学
3. 5 研究報告 The Cultivation of Korean Immigrants on American Soil: The Discourse on Cultural Construction” Kyeyoung PARK(カルフォルニア大学(アメリカ)ロサンゼルス校準教授) 於・地域研

連携研究「メディアにみる
イスラム女性の実像と虚像」

10. 14 研究報告「グローバル化と移民」伊豫谷登士(一橋大学大学院社会学研究科教授) 於・一橋大学
1. 20 研究報告「越境するタイ雲南系スリムの～21 つあいの諸相と共同性の構築」柳蔵(京都大学大学院人間・環境学研究科院生)「近代日本の家族と国家」牟田和恵(甲南女子大学人間関係学科助教授)「北アフリカにおけるマイクロクレジットと女性労働」鷹木恵子(桜美林大学国際学部助教授) 於・地域研

連携研究「南アジアにおける『民族』と国家」

3. 18 研究報告「白人女性の責務——インド支配とイギリス人女性をめぐる研究動向」粟屋利江(東京外国語大学外国語学部助教授)「女性の国民化と家庭内役割」小山静子(京都大学大学院人間・環境学研究科助教授)「アフリカ人女性は差別されているか？」戸田真紀子(天理大学国際文化学部助教授) 於・地域研

連携研究「オセアニアにおける
国家統合と地域主義に関する研究」

11. 18 研究報告「フィジーの二つのクーデター」～19 橋本和也(京都文教大学人間学部教授)「フィジー政治の論理について」東裕(苫小牧駒澤大学国際文化学部助教授)「ハワイ人の構想するナショナリティとエスニシティ」清水昭俊(一橋大学大学院社会学研究科教授) 於・地域研
12. 9 研究報告「マオリの和解と自立——タイヌ～10 イの栄光と挫折」内藤暁子(武蔵大学社会学部講師)「アボリジニの権利回復運動の現状と課題」窪田幸子(広島大学総合科学部助教授) コメント：東裕(苫小牧駒澤大学国際文化学部教授) 橋本裕之(千葉大